

## 母子感染防止に関する研究

(分担研究：HTLV-I 母子感染の予防 — 授乳期間との関係)

木下研一郎<sup>1)</sup>・伊藤瑞子<sup>2)</sup>

**要約** HTLV-I の母乳による母子感染は短期母乳児（6カ月未満）が長期母乳児よりも感染率は著明に低かった（7/146人=4.8% VS 26/124人=21.8%）。その結果、短期母乳でも予防対策は推進されると考えられるが母乳を確実に6カ月以内に制限するなど現実に難しい面も残されている。

**見出し語**：HTLV-I，母乳感染，授乳期間

**研究方法** 長崎県では妊婦のHTLV-I感染をスクリーニングしている。HTLV-I陽性キャリア妊婦に対して母乳による母子感染のおそれのあることを説明し、人工乳を推奨し、母子感染の予防対策を行っている。これまで追跡可能であった人工栄養児、短期母乳児（6カ月未満）、長期母乳児（6カ月以上）の感染率を比較して予防対策の成績を評価した。

**結果・考察** HTLV-Iの母乳による母子感染が起こることは確実となった。しかし、未だ授乳期間と母子感染率の関係については結論がえられていない。従来から長崎県では母子感染予防

対策を行っている。また、鹿児島地方の一部では同様の対策が行われている。そこで長崎と鹿児島のこれまでの成績（表1）を合計すると短期母乳児と長期母乳児の感染率の間には有意の差（ $p < 0.01$ ）がみられた。したがって半年程度の短期母乳では感染の危険は少ないと考えられる。

しかし、今後短期母乳を容認する場合に6カ月までに確実に母乳をやめられるのかが大きい問題として残される。

今後の検討課題である。

<sup>1)</sup> 国立長崎中央病院

<sup>2)</sup> 対馬いづはら病院小児科

表1 母乳期間と児の感染率 (プロスペクティブ・スタディ)  
1986~1994年

短期母乳児の感染率

対馬・上五島(≥ 2才)	2/ 43
長崎 (日野)(≥1.5才)	3/ 44
鹿大小児科 (≥ 1才)	2/ 59
計	7/146 ≒ 4.8%

長期母乳児の感染率

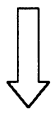
対馬・上五島(≥ 2才)	13/ 64
長崎 (日野)(≥1.5才)	10/ 48
鹿大小児科 (≥ 1才)	3/ 12
計	26/124 ≒ 21.0%

人工栄養児 ≥ 3才 (長崎)

30/797 = 2.8%



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 HTLV-1 の母乳による母子感染は短期母乳児(6 ヶ月未満)が長期母乳児よりも感染率は著明に低かった(7/146 人=4.8% VS 26/124 人=21.8%)。その結果・短期母乳でも予防対策は推進されると考えられるが母乳を確実に6 ヶ月以内に制限するなど現実に難しい面も残されている。